都小音研

平成30年10月18日第61巻429号

発　行　所
東京都小学校音楽教育研究会

事　務　所
東京都世田谷区松原5－43－26
世田谷区立松原小学校

児童の困難さに応じた指導を工夫する

東京都小学校音楽教育研究会
副会長　**玉野　麻衣**
（世田谷区立奥沢小学校長）

学習指導要領（平成29年告示）では、「障害者の権利に関する条約」に基づくインクルーシブ教育システムの理念を踏まえ、各教科等における障害のある児童への配慮についての事項を「学習活動を行う場合に生じる困難さに応じた指導内容や指導方法の工夫を計画的、組織的に行うこと」と示されています。各教科等の「解説」では、配慮例がそれぞれ示されており、小学校音楽科では以下の通りです。

○音楽を形づくっている要素の聴き取りが難しい場合は、要素に着目しやすくなるよう、要素の表れ方を視覚化・動作化するなどの配慮をする。なお、動作化する際は、決められた動きのパターンを習得するような活動にならないよう留意する。

○多くの声部が並列している楽譜など、情報量が多く、自分がどこに注目したらよいのか混乱しやすい場合は、拡大楽譜などを用いて声部を色分けしたり、リズムや旋律を部分的に取り出してカードにしたりするなど、視覚的に情報を整理するなどの配慮をする。

他教科等の例示も配慮する際の参考になるので、一読をお勧めします。これらの例示や、合理的配慮の３観点11項目等を参考にしながら、児童にとって充実した学びを保障する指導の工夫が必要です。また、児童一人一人の特性等に応じた必要な配慮を行う際は、教師の児童理解の在り方や集団指導での姿勢が、学級内の児童に大きく影響することに十分留意し、児童が「特別な支援の必要性」を理解し、互いの特徴を認め合い、支え合う関係を築いていくことも大切です。離席したり場面にそぐわない発言や大声を出したりする児童がいると、周囲にとっては「困った行動・厄介な行動」と受け止められがちですが、「本人の困り感の現れとしての行動」と捉えることが大切です。道具の操作の困難さや心理的な不安定、人間関係形成の困難さ、注意の集中を持続することの苦手さなど、児童によって困難さは様々です。児童の困難さを理解するために、学校全体でアセスメントを共有し、アセスメントに基づいた手立てを計画的・組織的に工夫していくことが必要です。

「障害のある児童の自立や社会参加に向けた主体的な取組を支援するという観点に立ち、一人一人の教育的ニーズを把握し、そのもてる力を高め、生活や学習上の困難を改善または克服するため、適切な指導及び必要な支援を行う」という特別支援教育の理念に、機会を捉えて立ち戻り、日々の実践を振り返りたいものです。

特別支援学校小学部・中学部学習指導要領（平成29年告示）を読むと、知的発達が極めて未分化で認知面での発達も十分ではない児童であっても、「思いに合った表現をするために必要な技能」を身に付けられるということが分かります。それは、「音や音楽を感じて　ア 体を動かす技能　イ 楽器の音を出す技能　ウ 声を出す技能」です。音楽教育における「音や音楽を感じること」の本質を見失うことなく、「児童の困難さに応じる」という視点での指導内容・指導方法の工夫・改善に取り組んでほしいと思います。

平成30年度 都小音研大会
大会主題「つなげよう　深めよう　生かそう　音楽を」
平成31年1月25日(金)　会場：新宿区立新宿文化センター

研究部長　石井　ゆきこ　(港・芝小)

新学習指導要領では、音楽科で育成を目指す資質・能力を「生活や社会の中の音や音楽と豊かに関わる資質・能力」と規定されました。それを受けて、都小音研では、児童が自ら「自分と音楽とのつながりを深めよう」「音楽で友達とつながろう」「音楽を生活に生かそう」と主体的、対話的に学び、学びの深まりを実感できる音楽科の授業実践を目指し、研究を進めています。

研究主題を具現化するために、３つの研究の視点を設定しました。

視点１　**音楽的な見方・考え方を働かせた主体的な学習の実現**
～音楽の知識及び技能を習得し活用する学習過程の工夫～

視点２　**学びを深める対話的な学習の充実　～音楽科の特質に応じた言語活動の工夫～**

視点３　**深い学びを支える指導と評価　～学びが深まった児童の姿を大切にした指導と評価の工夫～**

2019年度 全日音研全国大会 東京大会（総合大会）を見据え、様々な領域・分野の専門的な実践研究を進める各種研究会を中心とした研究を発表します。多くの先生方にご参会いただき、これからの音楽教育を考える機会としたいと思います。

♪ 大会プログラム ♪

公開授業７本、研究発表、講評・講演、全員合唱

授業Ⅰ-１　合唱研究会
歌唱「旋律や音の重なりに
ふさわしい表現で歌おう」
足立・辰沼小 ５年

授業Ⅰ-２　即興表現研究会
音楽づくり「特徴のある音階で
音楽をつくろう」
葛飾・中之台小 ６年

授業Ⅰ-３　鑑賞指導研究会
歌唱「世界の声の音楽に親しもう」
荒川・尾久第六小 ５年

授業Ⅰ-４　指揮法研究会
歌唱「せんりつの重なり合うひびきを
感じ取ろう」
新宿・落合第六小 ４年

授業Ⅱ-１　管楽器研究会
鑑賞「トランペットの音色に親しもう」
中野・武蔵台小 ４年

授業Ⅱ-２　邦楽教育研究会
音楽づくり「日本の音楽の特徴を生かして
音楽をつくろう」
荒川・尾久小 ５年

授業Ⅱ-３　音楽授業研究の会
鑑賞「曲のよさを味わってきこう」
中野・南台小 ３年

講評・講演

講師：文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官
文化庁参事官(芸術文化担当)付教科調査官
国立教育政策研究所教育課程研究センター研究開発部教育課程調査官
志民　一成 先生

演題：「 新学習指導要領の全面実施を見据えた音楽科の授業づくり 」

夏休みの研修報告

都小音研には10の各種研究会があり、それぞれが専門性を高めるため、特色ある研究活動を行っています。年間を通じて行われる月例会に加えて、夏季休業中には集中講座も開催され、会員以外の参加も多数あります。今夏研修会を実施した５つの研究会の研修報告をご紹介します。

◆ 音楽授業研究の会

８月３日・４日、世田谷区立松原小学校にて実施しました。午前中の分科会では、会員外を含めて70名を超す参加者が、３年生の鑑賞領域の題材を基に、子供が音楽科で身に付ける資質・能力の捉え方を新学習指導要領に照らして考えました。これまでに身に付いている知識の活用と新たな知識の習得について、活発な話し合いを行いました。午後は、講師の石上則子先生から「新学習指導要領の方向性を読み取る」という演題で、分科会からの報告と疑問点にも触れた中身の濃いお話を伺いました。参加者から「一日の学びにつながりがあり、一つの授業の流れのようだった」などの声が寄せられ、充実した研究会となりました。立岩　惠子（江東・亀高小）

◆ 管楽器研究会

８月６日・７日、渋谷区立神南小学校にて、毎年恒例の管楽器夏季ゼミナールを開催しました。作曲家、福田洋介先生に楽曲の編曲の仕方を教わりました。また、プロの演奏家、バンド指導者を講師に招き、120名近くの参加者が実技研修をしたり指導の基礎知識を習得したりしました。全体会で演奏する後藤洋先生作曲「わくわく　あしたへ」の演奏は、心が一つになり、胸が熱くなる瞬間でした。『楽しく体験、新たに発見、明日から実践！』実り多い２日間でした。

植田　美香（目黒・駒場小）

◆ 邦楽教育研究会

今年は東京都教職員研修センターとの初の連携研修として、８月１日、荒川区立第三日暮里小学校で行いました。箏、三味線、和太鼓、雅楽の４コースで実技研修を行い、約100名もの参加者が、各コースに分かれて短時間集中の熱い研修を行いました。楽器の扱い方、手入れの仕方、基本奏法や合奏など、短い時間でしたが、大変有意義な研修となりました。特に例年ご好評をいただいている講師の先生方の模範演奏では、獅子舞も飛び出し、和の様々な世界を味わうことができました。ぜひ今後の授業に生かしていってほしいと思います。

染谷　美由紀（荒川・瑞光小）

◆ 鑑賞指導研究会

７月30日、「世界の音楽に親しもう～教材化のための方法を体験する～」と題し、日本女子大学名誉教授・開智国際大学教授の坪能由紀子先生を講師に、50名で実施。前半は、昨年の音色を中心とした各学年の授業報告と、今年度と次年度の「世界の音楽」についての提案、後半は、ワークショップを含め、次の内容でご指導いただきました。１.聴くこととつくることの相関、２.即興への着目、３.音楽の仕組みや要素への着目、４.幅広い音楽語法へ(1)リズム、(2)音階、５.さまざまな文化における楽器、６.Local, Regional & Globalまたは固有性・共通性・普遍性。

坪能先生の素敵なお人柄や豊富な知識で、大変楽しく有意義な会でした。

長谷川　真澄（江東・川南小）

◆ 電子楽器研究会

顧問の初山正博先生を講師に、豊かな響きの合奏にするための編曲の仕方を学びました。まず、電子楽器が活用されている「ルパン三世のテーマ」を演奏し、編曲する際のポイントを学びました。そして、グループに分かれ、コードネーム付きのメロディー譜「カントリーロード」から、高学年向きの合奏譜を作成する演習を行いました。実際に音を出しながら、音色や音域を工夫して編曲しました。その後、全体でグループごとに作成した楽譜を演奏しました。実際に授業等で活用できる楽譜ができ、実りある研究会になりました。

陸田　祐子（世田谷・代沢小）

地区紹介

板 橋 区

23区の北西部に位置し、人口約57万人。全51校に約24000人の子供たちが学んでいます。

今年度より研究主題を「私も みんなも変わる 音楽の授業」－学びを深める指導法の工夫－としました。新学習要領の３つの視点を意識し、児童が「これが分かった、これができた」と実感できるような指導をめざし、研究授業を年３回行います。

音楽研究部の特色をひとことで表すとすれば、伝統とオリジナルです。

まずは「板橋よい子の歌」です。いわゆる都小音研児童作曲コンクールの板橋区版ですが、課題詞も児童から募集するところがオリジナルです。作詞部門で作品の中から１～２点を選出し、選ばれた歌詞に旋律を付けるのが作曲部門です。完成した曲は秋の連合音楽会で、作詞・作曲児童が聴いている前で、音楽部員によって演奏されます。今までに多くの作品が誕生し、中でも「はばたけ鳥」は各社の歌集にも掲載され、全国で歌われています。伝統を大切に、現在は各校作詞・作曲いずれかに１作品以上応募することになっています。

次に、オーケストラ鑑賞教室です。区内のホールにオーケストラを招聘し、全６年生が鑑賞。ここまでは一般的ですが、なんと全員合唱「つばさをください」のコーナーで、音楽部員が指揮台に立つのです。なかなか機会のない、吹奏楽や金管バンドとは異なる、重厚でとても温かい響きを背中に感じながら、児童の歌声と管弦楽とを結ぶ大役を担うことができます。

さらに、合唱、器楽・編曲、ドラムサークルのいずれかに所属してのグループ研究会活動、毎年夏季に行われる「教職員演奏会（出演は任意）」など、多彩な研究・研修活動は他地区には類を見ないものばかり。これらの積み重ねが日々の授業に還元され、子供たちは音楽科授業を通して多くの幸せを感じ取りながら、心豊かに成長しています。

井戸　正利（板橋・北前野小）

多 摩 市

多摩市は、都心から30kmほどに位置する地域です。明治時代から昭和30年頃までは多摩村と呼ばれ、農業を中心に成り立っていました。昭和30年頃には東京区部に住む人が増えてきて、郊外にも住宅が必要になり、田んぼが埋め立てられ、住宅地に変わっていきました。やがて、京王線の特急が通ることで、新宿までの所要時間が25分に短縮され、昭和39年には村から町に、昭和46年には町から市となり、人口もどんどん増えました。現在は、多摩ニュータウンとして発展しています。

多摩市音楽部では、研究テーマを「音楽に親しみ、主体的に音楽活動をする子を育てよう」と設定し、授業を中心とした指導力向上のために、低・中学年ブロックと、中・高学年ブロックに分かれて研究に取り組んでいます。日常的な授業を公開し合ったり、研究授業のための事前授業を複数行ったりすることで、部員全員が教材分析や指導案検討に関わり、研鑽を深めています。授業で生かせるテクニックやヒントを数多く共有し、それぞれの学校の子供たちの指導に生かしていきたいと考えています。

11月30日には、パルテノン多摩で多摩市音楽発表会を行い、日頃の学習の成果を発表し合います。音響効果の高い大ホールで演奏できることは、子供たちにとってよい経験になります。また、音楽専科の情報交換の場にもなっています。お互いの発表を通して研修できる機会を大切にしています。

近藤　恭子（多摩・北諏訪小）

都小音研大会合同研究会　報告

研究部長　石井　ゆきこ（港・芝小）

今年度の都小音研大会は、各種研究会を中心とした７本の公開授業を行います。各種研代表者会議で大会の研究内容や運営について検討していますが、互いの研究内容を交流する時間はもてません。

そこで、夏季休業に入ったばかりの７月24日、第１回拡大実行委員会の前に、合同研究会を実施しました（会場：中央区立中央小学校）。都研究部の研究内容の概要説明、研究会ごとの打合せを行い、その後、予定している大会の授業内容やこれまでの研究の経過を発表していただきました。（午前：授業Ⅰ-①合唱、②即興表現、③鑑賞指導、④指揮法、午後：授業Ⅱ-①管楽器、②邦楽教育、③音楽授業）発表と協議を含めて各15分という少ない時間でしたが、プレゼンテーション、映像や音源、実演などを交えて、分かりやすくご説明いただきました。

講師の志民一成先生からは「どの授業も教材選択がユニークで、メッセージ性が強い」と各研究会の意欲的な取組を評価していただきました。石上則子先生からは、授業のよさと課題についてきめ細やかなご助言をいただくとともに、2019年度全日音研総合大会を見据えた研究の進め方についてお話いただきました。大会に向けて、第一歩を踏み出す貴重な機会となりました。

学ぶ理事会

７月13日、中央区立明石小学校にて学ぶ理事会が行われました。

今回は、「身近な打楽器を生かして、合奏をブラッシュアップ！打楽器の実技とコンサート」をテーマに、パーカッショングループ・フラワービート代表の山本晶子先生、メンバーの小林真人先生、長谷川雄基先生、平松浩一郎先生をお迎えしました。

研修会は、身近な打楽器の基本的な奏法の実技研修、参加者全員でのアンサンブル、そしてフラワービートのみなさんによるコンサートと、盛りだくさんの内容でした。

はじめに、小物打楽器やスティック、マレットを使った実技研修を行いました。実際に音を出しながら、持ち方や構え方、様々な奏法などをテンポよく教えていただきました。

次に、これらの小物打楽器に木琴、鉄琴なども加えて、参加者全員で「テキーラ」のアンサンブルをしました。ボンゴやコンガなどについても、「ふちに手の生命線が当たる位置で叩く」、「叩いた瞬間に指を離す」など具体的な奏法を学びました。

最後はコンサート。たくさんの打楽器の他に、台所用品やデッキブラシなどの日用品も使った演奏を聴くことができました。一つ一つの楽器の音色の美しさや超絶技巧に、参加者全員が魅了されました。

山本先生から「打楽器は人を選びません。誰にでも音を出すことができるし、難しいことをやろうと思えば頑張ることができます。」とお言葉をいただきました。日常的に使っていた打楽器について、改めて確かめたり、新たな魅力に気付いたりすることができ、実り多い研修会となりました。

NHK全国学校音楽コンクール結果

〈全国コンクール〉　【金　賞】 日野市立七生緑小学校（小学校の部史上初の６連覇！）
　　【銀　賞】 港区立白金小学校

おめでとうございます

〈関東甲信越ブロックコンクール〉【金　賞】 日野市立七生緑小学校、港区立白金小学校
　　【銅　賞】 八王子市立上柚木小学校

〈東京都コンクール本選〉【金　賞】 八王子市立上柚木小学校、日野市立七生緑小学校、港区立白金小学校
　　【銀　賞】 町田市立鶴川第二小学校、にしみたか学園三鷹市立井口小学校
　　【銅　賞】 成城学園初等学校

〈東京都コンクール予選〉

〇予選Ａ　【金　賞】 文京区立本郷小学校、目黒区立東山小学校、八王子市立上柚木小学校
　　【銀　賞】 多摩市立東落合小学校、日野市立旭が丘小学校、足立区立辰沼小学校
　　【銅　賞】 多摩市立南鶴牧小学校、世田谷区立山野小学校、府中市立新町小学校

〇予選Ｂ　【金　賞】 三鷹中央学園三鷹市立第三小学校、港区立白金小学校
　　にしみたか学園三鷹市立井口小学校、世田谷区立赤堤小学校
　　【銀　賞】 世田谷区立中町小学校、世田谷区立祖師谷小学校
　　文京区立誠之小学校
　　【銅　賞】 練馬区立開進第三小学校、世田谷区立下北沢小学校

〇予選Ｃ　【金　賞】 星美学園小学校、日野市立七生緑小学校、成城学園初等学校
　　府中市立本宿小学校、町田市立鶴川第二小学校
　　【銀　賞】 目黒区立中目黒小学校、杉並区立桃井第四小学校
　　【銅　賞】 練馬区立光和小学校、豊島区立南池袋小学校

♪♪♪　理事会報告　♪♪♪

〈７月理事会〉　７／13　於：明石小学校

議長：峯岸　敦子（世田谷・松原小）

〇会長あいさつ

〇議事

- ８・９月の行事予定について
- 平成30年度　都小音研研究大会について
- 各部より　＊庶務　＊会計　＊研究
　　＊事業　＊調査　＊広報

〈９月理事会〉　９／６　於：松原小学校

議長：篠原　緑（港・青南小）

〇会長あいさつ

〇議事

- 10月の行事予定について
- 平成30年度　都小音研研究大会について
- 第55回　児童作曲コンクールについて
- 東日本小管研　管楽器フェスティバル
　都代表出演校について
- 平成32年度　多摩南ゾーンについて
- 各部より　＊庶務　＊会計　＊研究
　　＊事業　＊調査　＊広報

編集後記

都小音研研究大会に向けて、着々と準備が進められています。指導要領の改訂とも重なり、今年度は学びの場に恵まれています。この機会を生かして、進化の年にしたいものです。（K）

会報　都小音研
発行所：東京都小学校音楽教育研究会
発行人：会　長　　石橋　　悟
編　集：広報部
印　刷：コウシン　03-3324-9288